



Musick Memorial radio Station ミュージック記念無線局

この無線局に、パンアメリカン航空を先駆けた優秀な国際飛パイロットのキャプテン エドウィン C ミュージックの名前が付けられました。

ミュージック記念無線局が聳えるミュージックポイント岬はオークランドハーバーの東側に位置します。
この美しく絶景のミュージックポイント岬の公園は、結婚式や団体行事のランチやティーパーティーなどが行われる事でも良く知られています。

当時、無線局は政府の沿岸無線局として使用しておりましたが、後年に閉鎖しました。

現在では、郊外のアマチュア無線クラブが建物を使用し多くの古い通信機器などを復元しました。懐かしい日本や海外の通信機の魁となった通信機も展示しております。QSLカード（交信証明書）の配布やアマチュア無線免許の試験なども行っております。

日本人を含むメンバーと共に日本の無線設備を運用し世界に向けて電波を発信しております。

また、この記念無線局は民間航空の有視界飛行におけるレポーティングポイント（物票）と定められており、多くの飛行機がこの記念館や岬の上空を通過していきます。

絶景のミュージックポイントには世界中から観光客が訪れるていますので、是非とも日本の皆様にもニュージーランドにお越しの際は、記念館をお訪ね下さい。



お問い合わせ

記念館代表 Ian Walker J.P. (治安判事)

ニュージーランド: +64 9 626 7188

zl1bfb@nzart.org.nz

SARC Inc

PO Box 163060, Lynfield,

Auckland NEW ZEALAND

www.nzart.org.nz/branches/SARC/index.htm

記念館所在地: Musick Point Manukau Auckland New Zealand

日本語 (Japanese) でのお問い合わせは下記までどうぞ。

日本: 080-4045-1689 有山安男

ニュージーランド: +64-21-0295-6315

jnzac@hotmail.com



Musick Memorial Radio Station
ミュージック記念無線局
ZL1ZLD ZL1ZLF

New Zealand
ニュージーランド

www.nzart.org.nz/branches/SARC/index.htm



Musick Memorial Radio Station

ミュージック記念無線局



Capt Edwin C Musick (1894 - 1938)

キャプテン エドウィンC ミュージック

1938年1月11日、アメリカからニュージーランドのオークランド行き2回目のフライトの途中、飛行艇はサモアのパゴパゴに着陸し、再びオークランドへ向かって離陸しましたが、その直後にその飛行艇は空中爆発してしまいました。

キャプテン ミュージックとその乗組員全員は再び目的地であるオークランドを見ることなく、その尊い命が南太平洋に消えていきました。



代表:イアン ウォーカー 秘書:アン ウォーカー



キャプテン ミュージックは、1894年にセントルイス ミズーリの町に生まれ、9歳でロサンゼルス（カリフォルニア）に移り飛行機を眺めながら育ちました。そんな彼は、19歳の頃、航空学校に入学して事業パイロットコースで航空学を学びました。そこで、彼は飛行教官とパイロットになる扉を開いたのです。

1927年に最初の事業飛行として郵便物を運ぶ航空便のFokker Trimotorのパイロットとしてアメリカからハバナまでの運行を開始しました。これもまた、新しく記録した彼の最初の遠征の一つでした。

第一次世界大戦中には海軍のsecond lieutenantでもありました。戦後、多くの航空会社で乗務した後に、カリブ海でパンアメリカン航空を所有していたJuan Trippe氏の元でテストパイロットとして活躍して多くの飛行経歴を残しました。

1937年3月30日にパンアメリカン航空によって運用された4つのエンジンを搭載したシコルスキーS-42B飛行艇「Samoan Clipper（サモア快速艇）」で、アメリカ大陸とニュージーランドを結ぶ最初の定期航空便のための7,000マイル以上の調査飛行を終えオークランドのメカニクス湾に無事着陸しました。キャプテン エドウィン C ミュージックは航空界のパイオニアとして最も素晴らしい功績を収めたことで、法務大臣H.G.R. メーソン氏、オークランド ハーバー ボード委員長C.G. マッキンドー氏やオークランドの市長のアーネスト・デイヴィース氏を含む著名人の群衆によって出迎えられました。



キャプテン ミュージックへの追悼と敬意を表された記念のものは、アメリカのリッチモンド(カリフォルニア)とニュージーランドのオークランドにあるミュージック記念無線局の以外にもあります。

1944年2月11日にリパティーシップが彼の貢献と名誉を讃えミュージック記念トロフィーを贈りました。

1957年、海洋を横断し特別な飛行における効率的な航空機運航の安全のために最も貢献したキャプテン ミュージックに最後のトロフィーが贈られました。

1975年以来オークランドの国際空港ターミナルには、1938年にオークランド市民による義援金で贈られたトロフィーを展示しています。

1975年のオークランドへの返還前には、8年間に渡ってニューヨークのケネディ空港に展示されていました。

ミュージック ポイントと記念無線局の歴史

1836年1月22日に、ウィリアム・トーマス・フェアバーン宣教師は、タマキ川からワイロア川までの広大な土地(4万エーカー)をマオリ族の人々から購入しました。その後、その地域は「フェアバーン ブロック」として知られていました。

1851年にウィリアム・メーソン氏は「イーストヘッド」と呼ばれる500エーカーの土地をフェアバーン氏から購入して、ミュージック ポイント岬のあるバックランズビーチとイースタンビーチの半島の次期所有者になりました。

1852年9月6日に初めて不動産譲渡の処理がされ、メーソン氏は2つのビーチの間の土地を所有していましたが、明確にミュージック記念無線局の区画はクラウン(政府)のために確保されました。その後、イースタンビーチは、「メーソン ビーチ」と呼ばれました。当時のメーソンビーチは食べ物やマオリ族だけのためではなく、後に続いたPakeha(パキハ(マオリ語)(白人の意味))の人口増加のための大きな資源でもありました。

1930年代前半、政府は、ニュースと一般的な船舶や航空機の通信や他の国々との一般的な通信手段を確立する事を試みていました。その頃のニュージーランド郵政省は有能な無線技術者やシステム技術者たちを揃えて、オークランド周辺の多くの場所を無線局としての条件を試したが、ミュージックポイント以外に良い条件の場所がありませんでした。

1938年に建物の建設が始められ1941年に包括的な無線局として完成しました。後に空の英雄の功績を讃え無線局の建物はキャプテン エドウィンC ミュージックの名前になりました。

1942年1月12日にピーター・フレーザ氏(元ニュージーランドの首相)は、「ミュージックポイント航空無線局」を開きました。当初は、NZ郵政省によって全ての無線設備(国内外電報や海上の電信電話など)が運用されていましたが、後に、民間航空局による航空無線(管制)も加わり共同で建物を使用していました。この無線局は長年、船舶と航空機や郵政事業などの通信基地として大役を果たしました。後年、航空無線は各空港に移設され、記念無線局の所有権と海洋無線局の運営はニュージーランド テレコム Ltdが引継ぎました。海洋無線局の閉鎖後から現在までに、NZテレコムの携帯電話システムをこの建物で運用しております。また現在、無線局の建物には、この航空界の先駆けたキャプテン ミュージックの記念碑や記念額が展示されております。第二次世界大戦の間にキリバチ諸島で日本軍との間で犠牲になった郵政省の通信士の追悼のための記念額も収められております。

無線局は、戦争中に攻撃に備えた設備も万全でしたが、今では軍事的なゲートもなくなり、天気の良い日には、絶景の記念無線局の周りでランチやティータイムを楽しむ人々で賑わっています。夏季にはクリスマスツリーと呼ばれるポフツカワツリーの木に真っ赤な花が咲き乱れてとても綺麗です。岬の先端に立てば、まさに絶景、、、空も青く近い、、、島々が美しく観ることができます。勿論、冬でも緑に包まれております。

ボーイスカウトなどをはじめ青少年たちや興味のある方々に、実際の通信機に手を触れていただき、無線機の使用法や簡単な無線工学や電波法などのアドバイスや行っております。中継局無線運用をはじめ、QSLカード(交信証明書)の集配やアマチュア無線の試験や技術者による通信機の修理なども行われております。

2009年には、日本の無線業界のアイコム最新設備のD-Starの中継局も設置した他、500kHzのアンテナも設置し送受信可能になりました。この南半球の記念無線局で日本の電気技術を世界に先駆けた通信機を眼にすることが出来るでしょう。今後、益々進化し続けるこの記念無線局は日本の皆様のお越しを心よりお待ちしております。

訪問記念のTシャツなどの記念品も販売もしております。

無線や記念無線局の詳細に興味のある方はホームページをご覧ください。

www.nzart.org.nz/branches/SARC/index.htm



通信機器

ICOM

YAESU / STANDARD

NEC

JRC

KENWOOD

Collier - Beale

Dansk

PO 45 Set

RCA

Transmitter No.666

ZC1

アマチュア無線局

500 kHz

HF

V/UHF

中継局

145.775 MHz (- 600 kHz)

D-STAR

434.575 MHz (+5MHz)
1273.625 MHz (+20MHz)
1274.625 MHz (+20MHz)

ウェディング等

ミュージック ポイントの絶景の公園、緑の大地やブルースカイの下でのウェディングやその他の行事をお考えの方は、お早めの予約が必要です。下記までご連絡下さい。

Ian Walker
Ph (09) 626-7188
zl1bfb@nzart.org.nz